

平成 30 年 1 月 28 日実施 2 級 F P 技能検定試験（学科、実技：資産設計提案業務）について

<学科試験>

■出題傾向

相変わらず、過去の類似問題を中心としたオーソドックスな問題が多いが、科目によってはまったく新しい切り口の問題も出題されている。

■問題のレベル

バラつきが多少はあるものの、難易度は従来と変わらない科目が目立つ。従来のレベルと比べると、全般的に同じ程度という印象を受ける。

■特記事項

問題 9「住宅ローンの借換え」や問題 28「ポートフォリオの期待収益率」は、落ち着いて取り組むことができれば、計算自体は簡易なものである。一方、問題 60「最新の相続・事業承継の動向」は時事的な問題であり、新しい切り口の難問と言える。

<実技試験>

■出題傾向

一部に目新しい問題（問 15「減価償却費」など）があるものの、問われている項目に大きな変化はない。試験前に過去問題や練習問題を解いていた受検生は、落ち着いて解答できたと思われる。

■問題のレベル

従来どおり基本的な知識を問うものが大半であった。出題頻度の高い問題は、今回も出題されていた。また、解くまでに時間のかかりそうな問題とすぐに解ける問題が程よく出題されており、全体としての難易度は前回試験と同程度と考えられる。

■特記事項

問 17「法定相続分と遺留分」で問われているのは、それぞれの項目の基本事項であるが、組み合わせでの出題であったため、混乱してしまった受検生もいたと思われる。前回試験の丸暗記のみでは解答が進まなかったのではないか。一方、各項目の基本事項を押さえていた受検生は、十分合格ラインに到達できたと思われ、出題傾向に基づいた試験対策（学習）は有効であったといえる。

<総括>

学科試験については、際立って難しい問題は多くないものの、やや難易度が高い問題も含まれている（問題 22、問題 51、問題 60 など）。実技試験についても、オーソドックスな出題が多い一方で、最近の出題傾向とは異なる問題（問 4、問 15、問 23、問 31 など）もあり、少し戸惑った受検生もいたのではないだろうか。

今回の試験は、学科・実技ともに従来の出題をある程度は踏襲しているものの、やや難易度の高い内容を含む問題もいくつか見受けられるため、過去問をしっかりと学習し、頻出問題を迷うことなく解答できるレベルに仕上げていたかどうか合否のポイントになったと思われる。

※このシートは、平成 30 年 1 月 28 日に実施された試験を、東京ファイナンシャルプランナーズが独自に分析し総括したものです。あらかじめご了承ください。